

令和2年度
全国学力・学習状況調査
特徴的な問題

― 校内研修及び授業に生かすために ―

令和2年8月

富山県教育委員会

「特徴的な問題」とは

教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につながるよう、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題

- ◎ 「特徴的な問題」を、上記のような問題として取り上げました。
さらに、「特徴的な問題」を用いて展開する授業例も紹介しています。
今、求められている「身に付けさせたい資質・能力」を理解し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、日々の授業や校内研修等でご活用ください。

【令和2年度版】 目 次

	ページ
○ 特徴的な問題	
1 小学校「国語」	1
「国語」	2
「国語」授業の展開例	3
2 中学校「国語」	5
「国語」	6
「国語」授業の展開例	7
3 小学校「算数」	9
「算数」	10
「算数」授業の展開例	11
4 中学校「数学」	13
「数学」	14
「数学」授業の展開例	15
○ 令和2年度全国学力・学習状況調査の傾向（児童生徒質問紙）	17
○ 令和2年度全国学力・学習状況調査の傾向（学校質問紙）	21

1 小学校「国語」

(1) 国語 設問番号 1 三 事物のよさを調べ、自分の考えを發表する

(インスタント食品)

学習指導要領の領域等：5・6学年 A話すこと・聞くことエ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 目的や意図に応じ、取材内容を基にして、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

メモの内容を比較、対照したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かすことができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成31年度小学校 3三 (県 74.7% 国 68.2%)

1

青木さんの学級では、食生活について興味をもったことを調べ、学級の友達に發表をすることにしました。青木さんは、インスタント食品について調べています。次は「青木さんの考え」です。



青木さん

【青木さんの考え】

インスタント食品にはどのようなよさがあるのだろうか。ぼくは、簡単に作ることができておいしいところだと思っけれど、他の人は、どのようなよさを感じているのかな。家でも食べることがあるから、家の人に聞いてみよう。

【家の人の話】

メモ①

4/17 (金)

○取材をした相手
家の人

○インスタント食品のよさ
・替けて持ち運びが楽
・いろいろな種類がある

【二人暮らしの森さんの話】

メモ③

4/19 (日)

○取材をした相手
一人暮らしの森さん

○インスタント食品のよさ
・一人だけ作ることができるから作りやすい
・食料をむだにすることが少ない
・長時間かかるから買い置きができる

【スーパーマーケットの店長の話】

メモ②

4/18 (木)

○取材をした相手
スーパーマーケットの店長

○インスタント食品のよさ
・好みに合わせて選ぶことができる
・カレー、シチュー、パスタなど
・フリーズドライ製法は
・衛生が保たれる
・味の味やおろしほぼ変わらない

正答例

いろいろな種類があるので好みに合わせて選ぶことができる。一人分だけ作ることができるので作りすぎないところです。(59字)

三 青木さんは、取材を通して分かったことをもとに、インスタント食品のよさについて發表をします。あなたが青木さんなら、どのように話しますか。次の「發表の様子」の□に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【發表の様子】

今、身の回りには、たくさんのインスタント食品があり、ぼくの家でも食べることがあります。ぼくは、「簡単」、「おいしい」というところがインスタント食品のよさだと思っていましたが、それ以外にも、もっとよさがあるのではないかと思っきました。そこで、身近な人に取材をしてみたところ、いろいろなよさが見つかりました。

ぼくが、みなさんに伝えたいインスタント食品のよさは、

みなさんは、どのようなところがよさだと思っますか。

○ 【メモ①】から【メモ③】までの中から、伝えたいインスタント食品のよさを取り上げて書くこと。なお、取り上げるよさは一つでも二つ以上でもよい。

○ 実際に發表をしているような言葉づかいにすること。

○ 四十字以上、六十字以内にとめて書くこと。

学習指導上の留意点

- 目的を明確にして情報を関係付けながら聞き、自分の考えをまとめることができるようにする
自分の考えをまとめるためには、誰からどのような情報を聞き出し、その情報をどのように活用するのかのように、相手と目的とを明確にして取材することが重要である。目的に応じて、一番聞き取ったことを中心に自分の考えをまとめていくことができるように指導することが大切である。

指導のポイント

- ① 必要な情報を得るために、取材するのに適切な相手は誰かを考えさせる学習活動を取り入れる。
- ② 聞き出したかったことは何かを中心にして、取材前の自分の考えと、取材で得た情報とを比べて自分の考えをまとめさせる。

・参考：報告書 平成31年度 P. 48～P. 58 授業アイデア例 平成31年度 P. 7～P. 8

(2) 国語 設問番号 3 四 本を選んで友達に紹介する (棕鳩十「金色の足あと」)

学習指導要領の領域等：5・6 学年 C 読むことエ

評価の観点：読む能力 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 複数の叙述を関連付け、登場人物の心情について自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

平成 29 年度全国学力・学習状況調査【小学校】国語 B 3 三において、「物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめること」に課題がみられたことを踏まえて出題された問題

〈関連する問題と正答率〉 平成 30 年度小学校 A 4 (県 73.9% 国 74.0%)
 平成 29 年度小学校 A 4 一 (県 81.5% 国 79.4%)
 平成 29 年度小学校 B 3 三 (県 48.4% 国 43.7%)

3

木村さんの学級では、人と動物との心の交流が描かれている物語を友達と紹介し合うことにしました。木村さんは、棕鳩十の「金色の足あと」を選びました。次は、「物語「金色の足あと」のあらすじ」、「木村さんの考え」、「物語の最後の部分」、「ふせん①」から「ふせん④」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語「金色の足あと」のあらすじ】 (略) 【木村さんの考え】 (略)
 【物語の最後の部分】

調査問題の 16 ～ 18 ページ参照

↓

「まばゆい朝日」と「足あととは、金色にかがやいて」というところから、正太郎がキツネたちがかがやかしいものと感じているということが分かる。

(棕鳩十「金色の足あと」による。)

四 木村さんは、—— 部オを —— 部ア、エと関係づけて読み、「ふせん④」を書きました。木村さんが「ふせん④」に、正太郎がキツネたちがかがやかしいものと感じている、と書いた理由の説明として最も適切なものを、次の 1 から 4 までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 木村さんは、まばゆい朝日に照らされて、深い林のおくまで春の雪がさらさらとかがやいていると考えたから。
- 2 木村さんは、正太郎が親キツネの行動に心を動かされ、キツネの親子の幸せを喜んでいると考えたから。
- 3 木村さんは、「キツネの親たち」、「二ひきで」、「キツネども」という言葉から登場人物の様子が分かると考えたから。
- 4 木村さんは、朝日で金色にかがやく風景に、正太郎の父のすがすがしい気持ちが表れていると考えたから。

正答

2

学習指導上の留意点

- 物語を読み、叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることができるようにする
 登場人物の相互関係から人物像やその役割を捉え、そのことによって、内面にある深い心情も合わせて捉えること、象徴性や暗示性の高い表現や内容等に気付き、自分の考えをまとめることが大切である。

指導のポイント

- ① 場面の展開に沿って、登場人物の言動や心情の変化を捉えたり、複数の場面の叙述を相互に関係付けたりしながら読み、自分の考えの根拠となる叙述を見付けさせる。
- ② 心に残った叙述を取り上げ、その叙述を取り上げた理由を考え、「叙述を基にしてどう考えたか」を交流させる。
- ③ 優れた叙述は、一冊の本や一遍の文章だけでは分かりにくいこともあるので、同じ作者や同じ題材の作品を比べて読ませるようにする。

・参考：報告書 平成 30 年度 P. 32～P. 35 平成 29 年度 P. 34～P. 38、P. 74～P. 81
 授業アイデア例 平成 29 年度 P. 7～P. 8 平成 28 年度 P. 4

(3) 国語 設問番号 **2** 二 提案する文章を書く

(わたしたちにできる「プラスチックの3R週間」)

学習指導要領の領域等：5・6学年 B書くことウ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、書く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 事実と意見とを区別して書くことができるかどうかをみる。

【本の一部】 から、プラスチックがずっと残ってしまう理由について取り上げ、その理由は、本に書かれている事実であるということを確認して書くことができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉平成 29 年度小学校 B **2** 二 (県 72.7% 国 70.9%)

平成 25 年度小学校 B **2** 二 (県 27.9% 国 26.2%)

「効果的な引用の仕方を学ぼう」

1 「自分が調べたこと」が伝わるような書き表し方の工夫について話し合う。



前の時間までに、自分の興味をもったことについての下調べを終え、今日から一人一人が報告書を書き始めます。書き始める前に、自分が調べたことが伝わる文章にするための書き表し方の工夫についてみんなで考えましょう。

では、まず、自分が調べたことをより効果的に伝えるために、どんな工夫をしたいと思っているか、聞かせてください。



私は、読んだ人がよく分かるように、調べたことを文章だけではなく、絵や写真を使って伝えていけばよいと思います。

私は、表やグラフを入れようと思っています。



僕は、本で調べたことを入れようと思っています。



僕も、本に書いてあることを入れたいな。



本にはたくさんのことが書いてあるけど、どこを入れるといいか、よく分からないな。

3年生や4年生の時に「引用」について勉強したよ。

いろんな工夫がありそうですが、今日は、引用の仕方について取り上げます。では、本や資料から文章やグラフ等をどのように引用して書くと自分の考えをより効果的に伝えることができるか、これから配布するプリントの問題を解きながら、みんなで考えてみましょう。

★ポイント★

第3・4学年の情報の扱い方に関する指導事項に「イ 比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使うこと。」とあります。第3・4学年での引用についての学習と関連を図った指導が行えるよう、児童に「引用」についての既習の内容を思い起こさせるようにします。

これまでに学んできた「引用をする際の留意点」について、3年や4年の教科書で確認させると効果的です。

2 引用すればよいと思う部分に下線を引き、友達と見合う。

【下書き①】

提案します わたしたちにできる「プラスチックの3 R 週間」

■ 知っていますか プラスチックごみの問題

わたしたちの周りには多くのプラスチック製品があります。例えば、ペットボトル、ストロー、レジぶくろなどです。プラスチック製品のおかげで、わたしたちは便利な生活を送ることができています。

しかし、これらのプラスチック製品がごみになると、大きな問題になります。最近の新聞には、海岸に打ち上げられたクジラの胃の中からペットボトルなどが発見されたという記事や、森のサルがプラスチックごみを食べてしまったという記事がありました。わたしは、プラスチックごみが生き物に深くなえいきょうをあたえていることにアヒじょうにおどろきました。かん境省のホームページによると、世界のプラスチック容器の生産量は、1964年は1500万トンだったのが、2014年には3億1100万トンになっているそうです。以前に比べて増えていることが分かります。

プラスチックは時間がたつと分解されなくなるだろうと考えている人がいるかもしれません。けれども、

この部分に引用する。

【本の一部】「プラスチックのみみつ」という題名の本

◇ プラスチックを買く使おう

プラスチックは、軽くて丈夫で持ち運びがしやすいえ、さまざまな製品に加工することができます。わたしたちの生活を見回してみると、プラスチック製品はどんどん増えていて、生活になくはならないものとなっています。

こんなに便利なプラスチックですが、実はプラスチックの多くは自然には分解されません。植物や動物などから作られるものは、土や水の中で微生物によって分解され、なくなってしまいます。しかし、わたしたちの身の回りで使用されているプラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されません。そのため、ずっと残ってしまうのです。

★ポイント★
座席が離れていても隣の児童の線を引いた部分分かるように、大きめのプリントを準備する。

3 例と自分の線を引いた部分とを比べる。

今から、2枚の引用文を見せます。みなさんが線を引いた部分と比べてみましょう。

「自分で調べたこと」が伝わるような書き表し方の工夫

効果的な引用の仕方を学ぼう 板書例

絵
写真
表
グラフ
本の文章

↓
引用する

引用元の文章
【本の一部】「プラスチックのみみつ」という題名の本

◇ プラスチックを買く使おう

プラスチックは、軽くて丈夫で持ち運びがしやすいえ、さまざまな製品に加工することができます。わたしたちの生活を見回してみると、プラスチック製品はどんどん増えていて、生活になくはならないものとなっています。

こんなに便利なプラスチックですが、実はプラスチックの多くは自然には分解されません。植物や動物などから作られるものは、土や水の中で微生物によって分解され、なくなってしまいます。しかし、わたしたちの身の回りで使用されているプラスチックはほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されません。そのため、ずっと残ってしまうのです。

例1
プラスチックは、ほとんどが石油から作られているので、自然の中では分解されずずっと残ってしまうのです。

例2
「プラスチックのみみつ」という本によると、軽くて丈夫で持ち運びがしやすいえ、さまざまな製品に加工することができるそうです。

「プラスチックは自然の中では分解されないこと」ということを引用しなくてはいけないのだから、例1の方がいいね。私もそこに線を引いたよ。

例1だと、引用する内容はいいけれど、何という本から引用したのか分からないよ。

例2は、何という本から引用したのか出典は書いてあるけど、「軽くて丈夫」なことは今回伝えようとする内容に合わないね。

引用のポイント

- 目的に合った部分を抜き出す。
- 本や資料（出典）のタイトルを書く。
- 前後の文に合わせ、字数を考える。

調べた本や資料から引用してみよう

自分が調べた図鑑や本の中から引用したらよい部分を探そう。

★ポイント★
児童が目的や意図に応じて必要な内容を引用して書けるように、テーマに合わせて内容を選択したり、引用した内容が目的や意図に応じているか否かを判断したりする活動を取り入れることが大切です。
引用は原文に正確に行うことや、引用した文章等の出典については必ず明記するよう指導します。
引用する内容が全体の分量に対して適切な量になるように、全体とのバランスを考えて書くよう指導することが大切です。

4 今日の学習で分かったことを自分の言葉でまとめる。



伝えたい内容をはっきりさせて、目的に合った部分を引用することで、伝えたい内容がより効果的に相手に伝わるといことが分かりました。また、読む人が引用元の情報に立ち返って確認できるように、出典を示すことも大事だと分かりました。これから本や新聞から情報を引用するときには、しっかりと出典を示そうと思いました。

参考：報告書 平成29年度 P.64～P.73 平成25年度 P.56～P.64

2 中学校「国語」

(1) 国語 設問番号1三 スピーチをする（書道パフォーマンス）

学習指導要領の領域等：1学年 A話すこと・聞くことイ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、話す・聞く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 自分の考えが相手に分かりやすく伝わるように工夫して話すことができるかどうかをみる。

相手が伝えたかったことを踏まえながら、自分がそれをどう受け止めたかが分かるようにお礼の言葉を具体的に話すことができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成30年度中学校B 2三 (県55.3% 国54.6%)
平成29年度中学校B 2三 (県60.4% 国57.6%)

1 第一中学校の三年生は、卒業生から学ぶ会を開いています。その中で、高校生の橋本さんが、書道パフォーマンスについて動画を用いて話しています。次の「橋本さんの話」(場面②で映している画面)、「場面③で映している画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。



【橋本さんの話】

場面①

皆さん、こんにちは。青空高校の橋本です。今日は、私が所属する書道部で行っている書道パフォーマンスの魅力についてお話しします。書道パフォーマンスでは、複数のメンバーで一つの作品を書き上げます。これが、書道パフォーマンスの魅力だと私は思います。早速ですが、四月の新生入部会で私たちが行った書道パフォーマンスの様子をご覧ください。

場面②

ここで一度止めます。書道パフォーマンスでは、このように教室の半分ぐらいのとても大きな紙を使います。このとき私は、真ん中の文字を担当しました。私が使っている筆は墨を吸うとかなり重さになり、文字を書くのがとても大変です。他のメンバーも皆、それぞれ担当する文字に集中し、休全体を使って書いています。それでは、私たちの動きに注目して、作品が完成するまでの様子をご覧ください。

場面③

いかがでしたか、今映し出されている作品の言葉は、メンバーで話し合い、新入生を花のつぼみにたとえ、笑顔の花が咲くことを願って選びました。それから、一つの作品として文字の調和をとることを大切にしました。メンバー五人が、それぞれ自分の書きたいように書いては、よい作品にはなりません。そのため、中学校の授業で学んだ行書の筆順を確認しながら、何度も練習しました。このように、私はメンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げることに魅力を感じています。皆さんにも、書道パフォーマンスの魅力が伝わり、興味をもってもらえたらうれしく思います。

書道パフォーマンスの動画を最後まで視聴する。



【場面③で映している画面】



【場面②で映している画面】

三 この会の最後に、第一中学校の生徒がお礼の言葉を述べます。あなたなら、橋本さんに対してどのように述べますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 橋本さんへのお礼の言葉を実際に話すように書くこと。

条件2 橋本さんの伝えたいことを取り上げて、自分がそれをどのように受け止めたかが分かるように具体的に書くこと。

正答例 橋本さん、本日はありがとうございました。橋本さんのお話を伺って、メンバー全員で力を合わせて一つの作品を作り上げる書道パフォーマンスの魅力がよく分かりました。私たちも、力を合わせて学校行事等に取り組み、充実感を味わいたいです。

学習指導上の留意点

- 目的に応じて話の構成を工夫し、聞き手の反応を踏まえながら話すことができるようにする。話の全体として伝えたいことを明確にし、それを分かりやすく伝えるために各部分をどのように組み立てるかを考えることが大切である。

指導のポイント

- ① 何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識した上で、必要に応じて重要な情報を書き留める学習活動を取り入れる。
- ② 説明や発表の様子を録画・録音し、伝えたい内容が正確に伝わっているか、相手に分かりやすい言葉になっているかなどについて振り返る学習活動を取り入れる。
- ③ 話し手と聞き手だけでなく、その場を観察する立場を設け、それぞれの立場から検討する学習活動を取り入れる。

・参考：報告書 平成30年度P.73～P.77 平成29年度P.76～P.81
言語活動事例集【中学校版】P.19～P.20

(2) 国語 設問番号3 俳句を創作する

学習指導要領の領域等：2 学年 B 書くことウ

評価の観点：国語への関心・意欲・態度、書く能力 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 自分の考えが読み手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて書くことができるかどうかをみる。

俳句に用いる言葉を複数の候補の中から選び、その言葉を用いることで表現できる情景や心情を、選んだ言葉の意味に基づいて書くことができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成 31 年度中学校 3 二 (県 81.9% 国 77.8%)
平成 30 年度中学校 A 2 二 (県 69.4% 国 64.0%)

3

川口さんは、「卒業」をテーマに俳句を創作しています。次は、川口さんが「創作している俳句」とその俳句の に入る「言葉の候補」、川口さんが見ている【辞典の記述】です。あなたなら、「言葉の候補」の中のどの言葉を選びますか。A から C までの中から一つ選び（「言葉の候補」の中のどの言葉を選んでもかまいません）、それを選んだ理由を、あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

【創作している俳句】

卒業に と

【言葉の候補】

A ほろほろ
B ぼろぼろ
C ぼろぼろ

【辞典の記述】

ほろほろ ① 涙や葉・花びらといった小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる様子。② 山鳥・雉・鳩といった鳥の鳴く声。

ぼろぼろ ① 大粒の涙をこぼす様子。かたまりや粒などが、続けてこぼれ落ちたり崩れたりする様子。② 物がひどく破れたり崩れたりしている様子。

ぼろぼろ ① 涙や小さい粒状のものが、一粒ずつ続けてこぼれ落ちる様子。② ひとつかたまりになっていたものが水分を失って、ばらばらになる様子。

条件1 選んだ【言葉の候補】について、【辞典の記述】の中のどのような意味に着目したのかを、他の【言葉の候補】の意味との違いが分かるように書くこと。

条件2 選んだ【言葉の候補】を用いることで、どのような情景や心情を表現できると考えたのかを、条件1で取り上げた意味をもとに具体的に書くこと。

正答例 選んだ【言葉の候補】A

私は「ほろほろ」の「小さく軽いものが、音もなく続けてこぼれ落ちる」という意味に着目しました。「ぼろぼろ」には、「大粒の涙をこぼす」、「ぼろぼろ」には「一粒ずつ続けてこぼれ落ちる」などの意味がありますが、私は、卒業式の厳かな雰囲気の中で静かに涙を流す様子を表現したいので、「音もなく」という意味がある「ほろほろ」を選びました。

学習指導上の留意点

- 目的や意図に応じて説明や具体例を書き加えることができるようにする
伝えたい事実や事柄、意見等を相手に効果的に伝えるためには、目的や意図に応じて説明や具体例を書き加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んで描写したりすることが大切である。

指導のポイント

- ① 課題に沿って文章や図表等から必要な情報を根拠として取り出して、読み手に分かりやすく伝わるように自分の考えを加えて書く学習活動を取り入れる。
- ② 報告や記録の文章に不足している情報や、付け加えた方がよい情報について検討し、実際に説明や具体例を書き加える学習活動を取り入れる。
- ③ 短歌や俳句を作成し、書き手の立場で表現の工夫について説明したり、読み手の立場でその工夫が効果的かどうかについて検討したりするなどの学習活動を取り入れる。

・参考：報告書 平成 31 年度 P. 42～P. 48 平成 30 年度 P. 28～P. 32 平成 28 年度 P. 64～P. 68

(3) 国語 設問番号 **2** 四 説明的な文章を読む
 学習指導要領の領域等：1 学年 C読むことイ
 評価の観点：読む能力 問題形式：選択式

【出題の趣旨】文章の内容を捉え、書き手の考えを理解しているかどうかをみる。

文章の内容を捉えた上で、書き手の考えを別の具体例に当てはめて考える問題

〈関連する問題と正答率〉	平成 31 年度中学校	1 二	(県 65.6% 国 61.5%)
	平成 30 年度中学校B	1 一	(県 51.9% 国 45.9%)
	平成 30 年度中学校B	1 三	(県 14.2% 国 13.3%)

「筆者の考え方『やわらかい頭の使い方』を自分の言葉で説明しよう」

1 本文中にある「『半分に折って』違う見方で考えられている」事例を確認する。



今日は、細谷功さん・ヨシタケシンスケさんの共著『やわらかい頭の作り方 身の回りの見えない構造を解明する』という文章を読んで、本文中の「やわらかい頭の使い方」を自分の言葉で説明できるようになりましょう。では、まず本文を読みましょう。

(プリントを配布し、教師が音読した後で)

まず、本文を読んで面白いと思ったことを文章中の言葉を使って紹介してください。

私は、「好き」と「嫌い」の例になるほどと思いました。「好き」と「嫌い」は「反意語」だと思っていたのですが、「対象への関心が高い」という点で「同意語」だという考え方もあると分かって、面白いと思いました。



僕は、「成功」と「失敗」の例が印象に残りました。「成功」と「失敗」を両端にした横棒を、真ん中で折るといふ、その発想の仕方がとても面白いと思いました。



僕は、クレームを受けたときに、チャンスだと思う人がいることに驚きました。クレームする人の捉え方を変えると、全く違った見方ができるのだなと思いました。



みなさんは、「固定観念を異なる視点から見ること」に面白さを感じたわけですね。では、この文章の終わりに書かれている「『半分に折って』違う見方で考えてみてください。」についての問題を解いて、本文に示されている「やわらかい頭の使い方」が理解できているかどうか確認しましょう。黒板に示した図のア～エに入る組み合わせとして最も適切なものを次の1～4から選んで、理由を説明してみましょ。

	<p>4 3 2 1</p> <p>エ ウ イ ア ウ ア ウ ア ウ ア</p> <p>物事に挑戦しない 物事に挑戦する コンクールで落選する コンクールで入賞する</p> <p>エ イ エ イ エ イ</p> <p>状況が変わらない 状況が変わる 情報を減らす 情報を増やす</p> <p>文章を削除する 文章を追加する 文章を肯定する 文章を否定する</p> <p>判断を示さない 判断を示す</p>	<p>真ん中で折り曲げる</p> <p>ア どちらでもない イ</p> <p>↓ 「折り曲げた」結果 ↓</p> <p>イ どちらでもない ア</p> <p>↓ 対立軸の見直し ↓</p> <p>ウ エ</p> <p>実は統一重</p>	<p>板書例</p> <p>課題 「やわらかい頭の使い方」を自分の言葉で説明しよう。</p>
<p>「やわらかい頭の使い方」を具体的に説明し、それに対する自分の考え方を書く。</p>			

選択肢1と2は、アとイが横棒の反対の極にある「反意語」になっているけれども、横棒を「半分に折って」その二つを重ねたときに、「提案を肯定する」とか「情報を増やす」とかいう意味にならないから、違うと思うな。

選択肢3は、アの「一步前進する」とイの「状況が変わる」が、「反意語」になっていないから、違うね。

私は4だと思います。「成功」と「失敗」の例と同じで、一見「反意語」のように思える「コンクールで入賞する」ことも「落選する」ことも、「物事に挑戦する」という点では「同意語」になるし、その「反意語」は「物事に挑戦しない」になるからです。

そうですね。適切なのは4です。本文の例を使って説明できましたね。では、ア～エに入る言葉で、身の回りにある別の例を探してみましょう。



2 身の回りにある別の例を探し、周囲の生徒にその例があてはまる理由を説明する。

(ペア・グループ)

僕が考えた例は「ア 笑う、イ 泣く、ウ 心が動く、エ 心が動かない」です。なぜこの4つの言葉が入るかというところ…だからです。



そうか！「心が動く」という点で言えば、「笑う」も「泣く」も同じ意味だね！

★ポイント★

短時間でペアやグループの話合いを進めるために、交流する前に個で考える時間を十分確保し、対話の目的と方法等について明確に視点を示すことが大切です。

『半分に折って』違う見方で考える、『やわらかい頭の使い方』について、具体例を考えました。次に、「やわらかい頭の使い方」を具体的に説明し、それに対する自分の考え方を書きましょう。

3 「やわらかい頭の使い方」を具体的な言葉に置き換えて説明し、それに対する自分の考えをノートに書く。

「やわらかい頭の使い方」というのは、固定観念で物事を決めつけしないで、違う見方で考える頭の使い方だと思います。私も普段、物事を決めつけてしまうところがあったので、見方を変えて考えるようにしたいと思います。

「やわらかい頭の使い方」というのは、1年生のときに学んだ『ちょっと立ち止まって』の「他の見方を試してみる」という考え方と似ていると思いました。僕は部活動で失敗したときにとっても落ち込むのですが、「新たに挑戦することができる」と発想を変えてみることも大切なのではないかと考えることができました。

★ポイント★

第2学年の「C 読むこと」の(1)オに「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすること」とあります。生徒に「考えの形成」をさせる際には、文章に示されている書き手のものの見方や考え方を自分の考えと対比したり置き換えたりして、読み手が自分の知識や経験と結びつけて内容を捉えることができるように指導することが重要です。

4 「3」の内容を交流し、再度気付いたことがあればノートに付け加える。

・参考：報告書 平成31年度 P.20～P.34 平成30年度 P.66～P.72
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編

3 小学校「算数」

(1) 算数 設問番号2(2) 図形の構成要素や性質を基にした考察(角柱と円柱の側面)

学習指導要領の領域：2学年 A数と計算(3)ア D数量関係(2) 5学年 C図形(2)ア

評価の観点：数学的な考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 底面が正方形の四角柱の構成要素や性質を基に、示された乗法の式の意味を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

図形の構成要素や性質を基に、立体図形と式とを関連付けて説明することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成31年度小学校 1(3) (県44.3% 国43.9%)

平成28年度小学校B 5(1) (県8.6% 国6.9%)

2(2)

図2の四角柱は底面が正方形で、図2の四角柱のすべての側面に紙をはるためには、図3のような1枚の大きな長方形の紙の横の長さを、どのくらいの長さにすればよいのかを考えます。

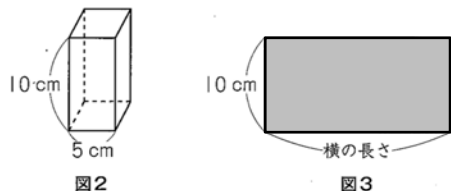


図3の横の長さは、次のように求めることができます。

求め方

$$\underline{5 \times 4} = 20 \text{ だから、答えは } 20 \text{ cm です。}$$

図2の四角柱について、求め方の中の「 5×4 」は、どのようなことを表していますか。「5」と「4」が何を表しているのかがわかるようにして、言葉や数を使って書きましょう。

〈正答の条件について〉

次の①、②の全てを書き、被乗数と乗数の関係を正しく書いている。

- ① 5が、底面の1辺の長さを表していること
- ② 4が、4つ分(又は4倍)であることを表していること

正答例

5は、底面の1辺の長さが5 cmであることを表しています。

4は、底面の1辺の長さが4つ分であることを表しています。

だから、 5×4 は、底面の1辺の長さ5 cmが4つ分であることを表しています。

学習指導上の留意点

○ 図形と式とを関連付けて、式の意味を説明することができるようにする

言葉や数、式、図、表、グラフ等を用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりして、自ら納得したり他者に分かりやすく説明したりできるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 図形を構成する要素等に注目して、面積の求め方を考えたり、公式を作ったりする過程を重視する。
- ② 具体物を用いたり、言葉、数、式、図、表、グラフ等を用いたりして、自分の考えたことを表現する活動を取り入れる。
- ③ 図形と式とを関連付けて明らかになった式の意味について、再度確認したり、ノートに記述して整理したりする活動を取り入れる。

・参考：報告書 平成31年度P.20～P.28 平成28年度 P.92～P.96

授業アイデア例 平成31年度P.9～P.10 平成28年度P.13～P.14

(2) 算数 設問番号③(2) 計算の仕方の解釈・検討と統合的な考察

(分数の加法と小数の加法)

学習指導要領の領域：3 学年 A 数と計算(6) アイ 5 学年 A 数と計算(4) エオ



評価の観点：数学的な考え方 問題形式：短答式


【出題の趣旨】 1 L の大きさを表している図を基に、異分母の分数の加法における示された二つの図について解釈することができるかどうかをみる。

分数の加法の計算の仕方における量の大きさを表す分数について、考察することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成 22 年度小学校 A②(2) (県 47.6% 国 40.2%)

3 (2) ようたさんたちは、 $\frac{1}{2}$ L と $\frac{1}{4}$ L を合わせると何 L になるのかを考えています。
式は、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ になることがわかりました。

ようた 1 L を  とすると、 $\frac{1}{2}$ L は  と表すことができますね。

はなこ 私も、 $\frac{1}{2}$ L を  と表して考えようと思います。

ようたさんたちは、 $\frac{1}{2} + \frac{1}{4}$ について、図をもとに考えました。

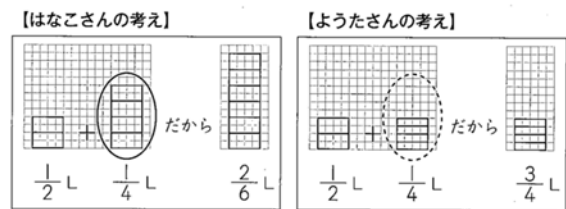
ようた 答えは $\frac{3}{4}$ L になりました。


はなこ $\frac{2}{6}$ L ではないのかな。

ようた $\frac{2}{6}$ L だとすると、 $\frac{1}{2}$ L と $\frac{1}{4}$ L をたしているのに、 $\frac{1}{2}$ L より小さくなっていますよ。

はなこ 本当ですね。 $\frac{1}{2}$ L は 1 L の半分だから、半分よりも小さい $\frac{2}{6}$ L になるのは、おかしいですね。

はなこさんは、【はなこさんの考え】と【ようたさんの考え】を見て、【はなこさんの考え】の中の○を、【ようたさんの考え】の中の○のように直す必要があることに気付きました。



1 L の大きさを  と表すとき、【はなこさんの考え】の中の○は、【ようたさんの考え】の中の○のように直さなければいけません。
【はなこさんの考え】の中の○を直さなければいけないわけを、次のようにまとめます。

【ようたさんの考え】の中の○のように、
② L を 4 等分しなければいけないのに、
【はなこさんの考え】の中の○は、
① L を 4 等分しているからです。

上の文の②、①に入る数を書きましょう。

正答 ② 1 ① 2

学習指導上の留意点

○ 分数の意味や表現に着目し、計算の仕方を考えることができるようにする

分数の加法について、計算の仕方を解釈して検討したり、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、整数の加法に帰着して考察したりすることができるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 分数で表された量がどのような量かを言葉や図で説明したり、1 L が図のどこに当たるのかを確認したりする活動を取り入れる。
- ② 分母の異なる分数の大きさを比べる場面に用いた方法を振り返り、通分を用いた計算の仕方を考え出すことができるようにする。
- ③ 求めた答えが問題に合っているかどうかを、問題場面と対応させて検討したり、図等を基に確かめたりする活動を取り入れる。

・参考：報告書 平成22年度P. 148～P. 154

(3) 算数 設問番号4(2) 資料について様々な観点で考察する (緑のカーテン)

学習指導要領の領域：3学年 D数量関係(3)ア

評価の観点：数学的な考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 示された棒グラフを基に、ほかの観点で表している棒グラフを棒の長さに着目して判断し、判断の理由を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる。

日常生活の問題の解決のために、資料の特徴や傾向を読み取ったり、目的に応じてその資料をほかの観点で考察したりすることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成30年度小学校B3(1) (県26.9% 国20.7%)

「ヘチマのくきの長さの表し方について考えよう」

1 ヘチマのくきの長さの棒グラフから分かることを話し合う。

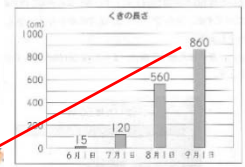


ヘチマのくきの長さを表した棒グラフを見て、どんなことが分かりますか。

ここを見ると、9月1日のくきの長さが一番長いことが分かります。



最初は15cmだったのに、8月には僕の身長より高くなったことが分かります。



棒グラフだと、ヘチマがのびていく様子がよく分かります。



私は、7月1日から8月1日までに一番のびたと思います。

ヘチマはいつ頃一番のびたのかな。



この棒グラフから、そんなことが分かるの…。

★ポイント★

グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、グラフのどの部分からどのように考えたのかを、他の人にも分かるように伝えることが大切です。

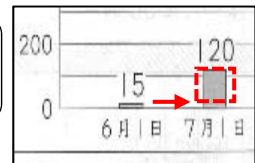
2 1か月間にのびたヘチマのくきの長さ調べの方法について話し合う。



1か月間にのびたヘチマのくきの長さは、どうしたら分かりますか。

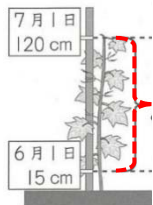


例えば、6月の1か月ののびは、7月1日の長さから6月1日の長さを引けば分かります。



もう少し、詳しく教えて。

グラフだけでなく、ヘチマの図も使って説明してもいいですよ。

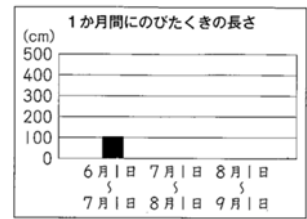


6月1日のヘチマのくきの長さは15cmで、7月1日の長さは120cmです。6月1日から7月1日までにのびたくきの長さは、この長さで、グラフの点線のところになります。だから $120 - 15 = 105$ cm のびたことが分かります。



1 か月間にのびたヘチマのくきの長さを棒グラフに表したらどうかしら。

では、棒グラフに表してみましょう。



★ポイント★

様々な観点とそれに対応するグラフに触れ、そこから読み取る機会をもつことで、目的に応じてグラフに表すとよいことを学ぶことが大切です。

筋道を立てて説明するときは、言葉だけでなく、数や式、図、表、グラフ等を用いることが大切です。

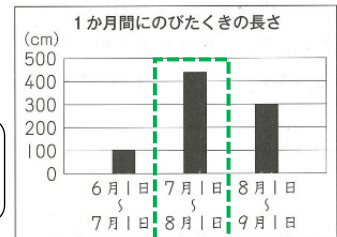
3 目的に合った観点で棒グラフに表し直し、のびたヘチマのくきの長さについて話し合う。



できた棒グラフからどんなことが分かりますか。



この棒グラフにすると、7月1日から8月1日までにくきの長さが一番のびたことが分かります。



くきの長さを表す棒グラフと、くきののびを表す棒グラフはちがうことが分かったよ。

この棒グラフだったら、1 か月間にのびたヘチマのくきの長さがよく分かるよ。



★ポイント★

目的に応じて資料を他の観点で考察できるように、2つのグラフを比べ、考察したことを表現し、伝え合う活動を取り入れることが大切です。

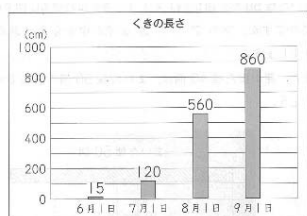
4 今日の学習で分かったことを自分の言葉でまとめよう。

課題

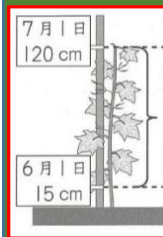
ヘチマのくきの長さの表し方について考えよう

板書例

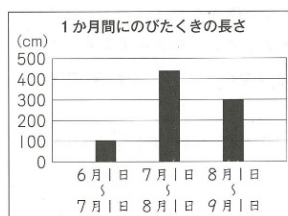
くきの長さのぼうグラフ



・9月1日のくきの長さが一番長いことが分かる。



1 か月間にのびたくきの長さのぼうグラフ



・7月1日から8月1日までにくきの長さが一番のびていることが分かる。



家庭学習課題
自分の育てているひまわりの、のびたくきの長さをぼうグラフで表し、分かったことを言葉で書こう。

まとめ

調べたいことに合わせて、ぼうグラフの表し方をかえると知りたいことが分かりやすい。

・参考：解説資料 令和2年度P. 46～P. 56
授業のアイデア例 平成30年度P. 11～P. 12

4 中学校「数学」

(1) 数学 設問番号 6(2) 事象の数学的な解釈と問題解決の方法(紙パック)

学習指導要領の領域：1 学年 C 関数 (1) エオ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

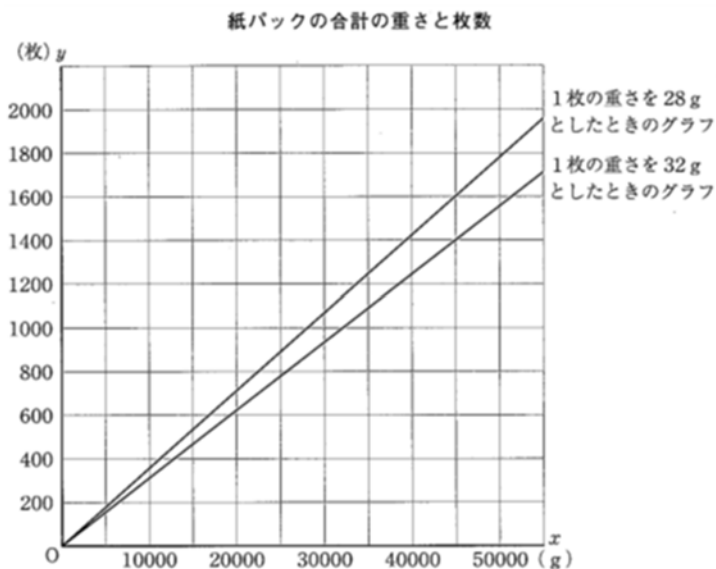
【出題の趣旨】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

日常生活や社会の事象を考察する場面において、グラフを事象に即して捉え、数学的な結果を事象に即して解釈し説明することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉 平成 30 年度中学校 B 3(3) (県 15.4% 国 13.2%)

6(2)

集まった紙パックの合計の重さを x g としたときの、紙パックの枚数を y 枚とします。二人は、紙パック 1 枚の重さを 28 g としたとき、32 g としたときの x と y の関係を、それぞれ次のような比例のグラフに表しました。



1 か月間で集まった紙パックの合計の重さを 45000 g とします。このとき、紙パックの枚数の違いがおよそ何枚になるかは、上のグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に枚数の違いを求める必要はありません。

〈正答の条件について〉 次の (a)、(b) 又は (a)、(c) について記述しているもの。

- (a) 1 枚の重さを 28 g としたときのグラフと 1 枚の重さを 32 g としたときのグラフの x 座標が 45000 である点に着目すること
- (b) 上記 (a) に対応する y の値の差を求めること
- (c) 上記 (a) に対応する 2 点間の y 軸方向の距離を読むこと

正答例

- ・ 1 枚の重さを 28 g としたときのグラフと 1 枚の重さを 32 g としたときのグラフについて、 x の値が 45000 のときの y の値の差を求める。
- ・ 1 枚の重さを 28 g としたときのグラフと 1 枚の重さを 32 g としたときのグラフについて、 x の値が 45000 のときの 2 点間の y 軸方向の距離を読む。

学習指導上の留意点

- 問題解決のために数学を活用する方法を考え、説明できるようにする

問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。問題解決の方法に焦点を当て、グラフの「使い方」について、説明する場面を設定する。

指導のポイント

- ① 「対応する y の値の差を求める」や「2 点間の y 軸方向の距離を読む」など、問題解決の方法を説明し合い、互いの説明を比較検討する活動を取り入れる。
- ② グラフを用いれば、紙パックの枚数のおよその差が一目で分かることなど、数学を活用することのよさを感じ得できるようにすることや、式を用いれば正確な値が求められることなどを通して、様々な事象の考察や問題解決に数学を活用する態度を育成する。

・ 参考：報告書 平成30年度P. 114～P. 120 平成28年度P. 113～P. 118

(2) 数学 設問番号7(3) 条件を整理したり付加したりすることを通して、発展的に考察すること(三角形から四角形)

学習指導要領の領域：2学年 B図形(2)ウ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる。

証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理し、新たに付加された条件の下で、成り立つと予想される事柄について数学的に説明することができるかどうかをみる問題

7(3) 右の図5のように、12ページの図1の△ABCを、∠Bの大きさが90°である三角形に変え、点Eを辺BCの中点としたとき、△ABCからできる四角形ABEFがどんな四角形になるかを考えます。

このとき、四角形ABEFは平行四辺形の特別な形になります。△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFはどんな四角形になりますか。「～ならば、……になる。」という形で書きなさい。

図5

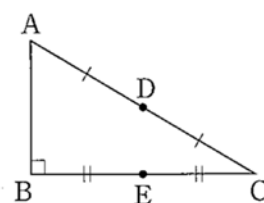
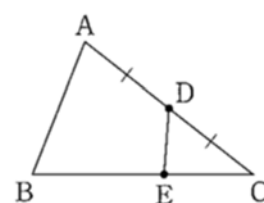


図1



〈正答の条件について〉

「○○ならば、◇◇になる。」という形で、次の(a)、(b)の条件を満たし、成り立つ事柄を記述しているもの。

- (a) ○○が、「△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点」である
- (b) ◇◇が、「四角形ABEFは長方形」である

正答例

- ・△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFは長方形になる。
- ・△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFは1つの内角が90°の平行四辺形になる。

学習指導上の留意点

○ 付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるようにする

新たに条件を加えた際に、見いだした事柄の前提に当たる条件と、それによって説明される結論を明確にして表現する活動を取り入れ、付加した条件の下で、見いだした事柄を数学的に表現できるように指導することが大切である。

指導のポイント

- ① 本設問を使って、図1の△ABCを図5のように、∠Bの大きさが90°である三角形に変えた図形をかく。点Eを辺BCの中点としたとき、△ABCからできる四角形ABEFがどのような四角形になるかを考え、説明する活動を取り入れる。その際、どのような条件が付加されたかを整理し、その中で、∠B=90°、BE=CEであることから、四角形ABEFが長方形になることを確認する活動を取り入れる。
- ② 前提と結論を明確にし、「△ABCにおいて、∠Bの大きさが90°で、点Eが辺BCの中点ならば、四角形ABEFは長方形になる」などと表現し、それが正しいかどうかを証明できるようにする。

・参考：報告書 平成30年度P.121～P.127

(3) 数学 設問番号⑧(3) データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断する
(病院の待ち時間)

学習指導要領の領域：1 学年 D資料の活用(1)イ

評価の観点：数学的な見方や考え方 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 データの特徴を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

日常生活や社会の事象を考察する場面で、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断すること、判断の理由を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

「病院での待ち時間について調べよう」

- 「調べたこと」から分かることを話し合う。
- 分かったことが常に成り立つとは限らないことを話し合う。

課題	病院での待ち時間について調べよう	板書例																									
	<p>調べたこと</p> <table border="1"> <caption>調べたこと (Histogram Data)</caption> <thead> <tr> <th>時間台</th> <th>総度数</th> <th>0-60分</th> <th>60-120分</th> <th>120-180分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8時台</td> <td>54</td> <td>27</td> <td>17</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>9時台</td> <td>38</td> <td>13</td> <td>12</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>10時台</td> <td>33</td> <td>16</td> <td>12</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>11時台</td> <td>25</td> <td>20</td> <td>5</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	時間台	総度数	0-60分	60-120分	120-180分	8時台	54	27	17	10	9時台	38	13	12	13	10時台	33	16	12	5	11時台	25	20	5	0	<p>「調べたこと」から分かること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ Aさんの意見 <p>8時台は11時台より、待ち時間が60分未満の来院者数が多い。</p>
時間台	総度数	0-60分	60-120分	120-180分																							
8時台	54	27	17	10																							
9時台	38	13	12	13																							
10時台	33	16	12	5																							
11時台	25	20	5	0																							

Aさんから、「8時台は11時台より、待ち時間が60分未満の来院者数が多い」という意見が出ましたが、皆さんはどう思いますか。

8時台が27人で11時台が20人だから、60分未満の来院者数は8時台の方が多いよ。

11時台の方が来院者数は少ないけど、総度数が8時台とは違うよ。

「8時台は11時台より、待ち時間が60分未満の来院者数が多い」とは言い切れないような意見ができましたよ。

総度数が違うから比較できないよ。

来院者数だけで判断していいのかな。

相対度数を求めて比較するのがよいと思います。

どうして相対度数で比較するの。

相対度数は総度数に対する割合なので、総度数が異なるデータを比較するには適しているからよ。

★ポイント★

ヒストグラムや相対度数等について理解し、それらを用いてデータの傾向を捉え説明することを通して、データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができるようにすることが大切です。



皆さんの意見を聞いていると、「8時台は11時台より、待ち時間が60分未満の来院者数が多い」とは言い切れないかもしれませんね。
では、言い切れないことを相対度数を使って説明してみましょう。

8時台の相対度数を求めると、0.50になったよ。



正答例

8時台の総度数は54で、待ち時間が60分未満の度数が27なので相対度数は0.50である。

また、11時台は総度数が25で、待ち時間が60分未満の度数が20なので相対度数は0.80である。

8時台と11時台の相対度数を比べると、0.50より0.80の方が大きい。

よって60分未満の来院者数は、8時台の方が11時台より多いとは言い切れない。



11時台の相対度数を求めると、0.80になったよ。

8時台と11時台の相対度数を比べると、0.80の方が大きいね。



相対度数で比べると、「言い切れない」ことが分かるね。

3 さらなる問題を見だし、家庭学習へつなげる。



相対度数を求めて、「分かったこと」を確かめることができましたね。さらに調べてみたいことはありませんか。



9時台、10時台の相対度数についても調べてみたいです。

階級の幅を30分にしたら、データの分布の様子が変わるのか調べてみたいです。



これまで学習したことを基に、調べてみたいことをレポートにまとめましょう。

★ポイント★

階級の幅を30分にしたデータや度数分布表等を準備しておき、学びを広げることが大切です。階級の幅を30分にしたデータは、8時台の30分未満の相対度数が11時台よりも大きくなるように意図的に設定することもでき、批判的に考察し判断する力を育てることができます。

また、タブレット等のICT機器に、階級の幅が変更できるヒストグラムを入れておくとう効果的に学習を進めることができます。

4 今日の学習で分かったことを自分の言葉でまとめよう。



今日の学習から、どんなことが分かりましたか。

最初は度数を比べればよいと思ったけれど、度数だけでは比べることができないときがあると分かりました。



総度数の異なるデータを比較するときは、度数の代わりに、相対度数を用いると比較しやすくなることが分かりました。

・参考：解説資料 令和2年度P.34～P.41

令和 2 年度全国学力・学習状況調査の傾向

区 分	児童生徒質問紙(小学校・中学校)
特 徴	<p>1 分類区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総数は、小学校が 9 から 2 増え、11 となった。中学校は昨年度と同じく、11 であった。 <p>2 質問数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、昨年度より 13 問増え、71 問である。新設の質問は、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」についての質問 3 問を含む 27 問、削除された質問は、14 問である。 ・中学校では、昨年度より 2 問増え、71 問である。新設の質問は、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」についての質問 3 問を含む 29 問、削除された質問は、27 問である。 <p>3 本年度の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I C T機器を使用した勉強について、1 日当たりの時間を問う質問が新設された。 小中(30) ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について、児童生徒自身の話し合い活動時の取組等を問う質問が新設された。 小中(38)～(40) ・小学校では、英語についての質問が新設された。 小(67)～(69)
注目すべき質問	<p>1 新設された質問 (質問番号は令和 2 年度のもの、<u> </u>は 30 年度からの再掲、<u> </u>は 29 年度からの再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小中(5)</u> 「家の人(兄弟姉妹は含みません。)と進路などの将来のことについて話すことがありますか。」 ・<u>小中(6)</u> 「携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。」 ・<u>小中(7)</u> 「テレビを見る時間やゲームをする時間などのルールを家の人と決めていますか。」 ・<u>小中(8)</u> 「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか。(勉強のためのテレビやビデオ・DVD を見る時間、テレビゲームをする時間は除きます。)」 ・<u>小中(9)</u> 「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含みます。)をしますか。」 ・<u>小中(10)</u> 「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)」 ・<u>小中(22)</u> 「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含まれます。)」 ・<u>小中(23)</u> 「学習塾(家庭教師の先生に教わっている場合も含みます。)で勉強をしていますか。」 ・<u>小中(30)</u> 「普段(月曜日から金曜日)、1 日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどの I C T機器を、勉強のために使っていますか。」

- ・ 小中(32) 「授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」
- ・ 小中(33) 「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う」
- ・ 小中(35) 「授業では、学級の友達との間で〔生徒の間で〕話し合う活動をよく行っていたと思う」
- ・ 小中(36) 「授業で、学級の友達との間で〔生徒の間で〕話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思う」
- ・ 小中(38) 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」
- ・ 小中(39) 「友達と話し合うとき、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて、自分の考えを持つことができる」
- ・ 小中(40) 「授業で、調べたことや考えたことを 800〔1, 200〕字(400字詰め原稿用紙 2〔3〕枚)程度でまとめたことがある」
- ・ 小中(49) 「国語の授業では、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりしている」
- ・ 小中(50) 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」
- ・ 小中(51) 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係がわかるように〔自分の考えが伝わるように根拠を明確にして〕書いたり表現を工夫して書いたりしている」
- ・ 小中(52) 「国語の授業では、目的に応じて文章を読み、感想や考えを持ったり、自分の考えを広げたり〔内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたり〕している」
- ・ 小中(53) 「先生は、国語の授業で、自分のできているところや改善できそうなところがどこか教えてくれる」
- ・ 中(59) 「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考える」
- ・ 中(60) 「数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える」
- ・ 中(61) 「数学の授業で公式やきまりなどを習うとき、その根拠を理解するようにしている」
- ・ 中(62) 「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫してノートに書いて理解するようにしている」
- ・ 小中(63) 「算数〔数学〕の授業で問題を解くときに、ブロックや絵、図、数、式〔表、式、グラフなど〕を使って問題場面を表して〔関係や特徴を捉えて〕解こうとしている」
- ・ 小中(64) 「算数〔数学〕の授業で問題を解くときに、自分で考えた後に、友達の意見を聞いて〔友達と話し合って〕、よりよい考えがあれば〔見つければ〕、それを他の問題を解くときに使おうとしている」
- ・ 小中(65) 「先生は、算数〔数学〕の授業で、自分のできているところや改善できそうなところがどこか教えてくれる」
- ・ 小(67) 「英語の勉強は好きだ」
- ・ 小中(68) 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた英語の授業では、英語で〔話したり書いたりして、〕自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていた」

- ・小(69) 「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語の歌を聞いたりテレビで見たりする、英会話教室に通うなど)」

2 変更された質問 (質問番号は令和2年度のもの)

- ・「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。」
→小中(20) 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。 (学校の授業の予習や復習を含みます。) 」
- ・「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICTをどの程度使用しましたか。」
→小中(28) 「5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。」
- ・「授業でもっとコンピュータなどのICTを活用したいと思いますか。」
→小中(29) 「授業でもっとコンピュータなどのICT機器を活用したいと思いますか。」
- ・「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う。」
→中(44) 「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」
- ・「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている」
→小(61) 「算数の授業で公式やきまりなどを習うとき、そのわけを理解するようにしている」
- ・「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」
→小(62) 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるように工夫してノートに書いて理解するようにしている」
- ・「あなたはこれまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)が十分にありましたか。」
→中(69) 「これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、英会話教室に通うなど)」

3 削除された質問 (質問番号は31年度のもの)

- ・小中(7) 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う」
- ・小中(11) 「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある」
- ・小中(12) 「学校に行くのは楽しいと思う」
- ・小中(20) 「昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか。」
- ・小中(21) 「読書は好きですか。」
- ・小中(25) 「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う」

- ・小中(26)「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う」
- ・中(27)「学校の部活動に参加していますか。」
- ・中(28)「普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。」
- ・中(29)「学校の部活動に参加する主な理由は、以下のうちどれですか。」
- ・小(30)中(33)「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」

- ・小(41)中(44)「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」
- ・小(42)中(45)「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えを話したり書いたりしている」
- ・小(43)中(46)「国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由〔根拠〕を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している」
- ・小(44)中(47)「国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる」
- ・小(51)「算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う」
- ・小(53)「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える」
- ・中(55)「英語の勉強は大切だ」
- ・中(56)「英語の授業はよく分かる」
- ・中(57)「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」
- ・中(59)「あなたは将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか。」
- ・中(60)「1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」
- ・中(61)「1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」
- ・中(62)「1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う」
- ・中(63)「1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う」
- ・中(64)「1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う」
- ・中(65)「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う」
- ・中(66)「1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う」
- ・中(69)「解答時間は十分でしたか(英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと)」

_____は児童質問紙の表記、〔 _____ 〕は生徒質問紙の表記

令和 2 年度全国学力・学習状況調査の傾向

区 分	学校質問紙(小学校・中学校)
特 徴	<p>1 分類区分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総数は小学校が13から3増え16、中学校は14から2増え16となった。小中学校共に「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法」「学習評価」が追加された。さらに、小学校では、「英語の指導方法」が追加された。また、中学校では「英語科の指導方法」が「英語の指導方法」に変更された。 <p>2 質問数</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校では、昨年度より11問増え、75問である。新設の質問は、学習評価に関する質問（再掲を含む）3問を含む24問、削除された質問は、13問である。 ・中学校では、昨年度より5問減り、75問である。新設の質問は、学習評価に関する質問（再掲を含む）3問を含む24問、削除された質問は、29問である。 <p>3 本年度の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分類区分及び分類区分ごとの質問数が小学校・中学校で統一された（ただし、小学校は「算数科の指導方法」、中学校は「数学科の指導方法」となっている）。 ・「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」の分類区分では12の質問があり、平成29年度の再掲が6問、新設が3問あった。 小中(26)～(37) ・「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科 道徳の指導方法」が新設され、小学校・中学校とも4問の質問があった。 小中(38)～(41) ・「学習評価」の分類区分が新設され、平成29年度の再掲の質問が1問、新設の質問が2問あった。 小中(42)～(44) ・小学校では「英語の指導方法」という分類区分が新設され、2問の質問があった。中学校では「英語の指導方法」（昨年は「英語科の指導方法」で13問）という分類区分で、2問の質問があった。 小中(57)(58)
注目すべき質問	<p>1 新設された質問（質問番号は令和2年度のもの、<u> </u>は30年度からの再掲 -----は29年度からの再掲）</p> <p><u>小中4. 教職員の資質能力の向上</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小中(20)</u>「児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている」 <p><u>小中5. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>小中(27)</u>「児童生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができている」 ・<u>小中(28)</u>「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」 ・<u>小中(29)</u>「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」 ・<u>小中(30)</u>「児童生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができている」 ・<u>小中(31)</u>「（前年度までに、）授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れた」

- ・小中(32) 「(前年度までに、) 児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた」
- ・小中(35) 「(前年度までに、) 知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れた」
- ・小中(36) 「(前年度までに、) 総合的な学習の時間や各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを 800 字[1, 200 字](400 字詰め原稿用紙 2[3] 枚) 程度で、児童生徒にまとめさせたことがあった」
- ・小中(37) 「調査対象学年の児童生徒に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。」

小中 7. 学習評価

- ・小中(42) 「(前年度までに、) 児童生徒のよい点や改善点などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにした」
- ・小中(43) 「(前年度までに、) 創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、評価規準や評価方法の教師間での明確化・共有化や、学年会や教科等部会等の校内組織の活用など、組織的かつ計画的な取組をした」
- ・小中(44) 「(前年度までに、) 授業の中での目標 (めあて・ねらい) を児童生徒に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」

小中 8. 国語科の指導方法

- ・小中(47) 「言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業」
- ・小中(48) 「目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業」
- ・小(49) 「目的に応じて、自分の考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたり書き表し方を工夫したりする授業」
- ・中(49) 「目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりする授業」
- ・小(50) 「目的に応じて文章を読み、感想や考えをもったり自分の考えを広げたりする授業」
- ・中(50) 「目的に応じて文章を読み、内容を解釈して自分の考えを広げたり深めたりする授業」

小中 9. 算数・数学科の指導方法

- ・小(54) 「具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動」
- ・中(54) 「観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動」
- ・小(55) 「公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していた」
- ・中(55) 「公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していた」
- ・小中(56) 「問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導」

小中 10. 英語の指導方法

- ・小(57) 「調査対象である第 6 学年の児童に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で自分自身の考えや気持ちを伝え合う (対話的な) 活動に取り組みましたか。」

- ・中(57) 「調査対象である第3学年の児童に対する英語の指導に当たって、前年度までに、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う（対話的）活動に取り組みましたか。」
- ・小(58) 「学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会などを十分に設けていますか。」
- ・中(58) 「全国・学力学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実などの授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善などの学習評価の改善に取り組んでいますか。」

小中11. ICTを活用した学習状況

- ・小中(60) 「（前年度に、）児童生徒が、コンピュータなどのICT機器を使用した授業」

小中15. 家庭学習

- ・小中(72) 「家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教師の指導改善や児童生徒の学習改善に生かす」

2 変更された質問（質問番号は令和2年度のもの）

小中3. 学校運営に関する状況

- ・「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」
→小中(16) 「言語活動について、国語科だけではなく、各教科、特別の教科、道徳、（外国語活動、）総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいる」に変更された。

小中6. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- ・「道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をした」
→中(41) 「特別の教科、道徳の時間において、生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」

小中11. ICTを活用した学習状況

- ・「調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、教員が、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICTを活用した授業を1クラス当たりどの程度行ったか」
→小中(59) 「教員が、1クラス当たり、大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などのICT機器を活用した授業」
- ・「調査対象学年の児童生徒に対する指導において、前年度に、児童生徒が、コンピュータ等のICTを活用する学習活動を1クラス当たりどの程度行いましたか」（30年度）
→小中(60) 「児童生徒が、コンピュータなどのICT機器を使用した授業」

3 削除された質問（分類区分や質問番号は平成31年度のもの）

小中1. 学校規模等

- ・小中(7) 「日本語指導が必要な児童生徒の人数は、何人ですか。」

小中2. 生徒指導等

- ・小中(8) 「熱意をもって勉強している」
- ・小中(10) 「礼儀正しい」

小中3. 学校運営に関する状況

- ・中(22) 「部活動のあり方について、保護者や地域と連携して見直しを進めている」

小中4. 教職員の資質能力の向上

- ・小(23)中(24) 「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている」

- ・小(25)中(26)「教員が、他校や外部の研修機関などで学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」
- ・小(31)中(32)「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

小中6. 国語科の指導方法

- ・小(41)中(42)「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」
- ・小(42)中(43)「書く習慣を付ける授業」
- ・小(43)中(44)「様々な文章を読む習慣を付ける授業」
- ・小(44)中(45)「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」

小中7. 算数(数学)科の指導方法

- ・小(48)中(49)「計算問題などの反復練習をする授業」

中8. 英語科の指導方法

- ・中(50)「補充的な学習の指導」
- ・中(51)「発展的な学習の指導」
- ・中(52)「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動」
- ・中(53)「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動」
- ・中(54)「原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動」
- ・中(55)「英語でスピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動」
- ・中(56)「自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動」
- ・中(57)「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動」
- ・中(58)「聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動」
- ・中(59)「調査対象である第3学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、どの程度、授業を英語で行いましたか」
- ・中(60)「前年度までに、英語教育に関して、お互いの授業を見て指導方法や指導内容を学び合うなどの連携を小学校とどの程度行いましたか。」
- ・中(61)「年間の授業のうち、どのくらいの頻度でALT（外国語指導助手）を活用した授業を行いましたか。」
- ・中(62)「英語担当教師とALT（外国語指導助手）との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか。」

小12中13. 家庭学習

【国語】

- ・小(61)中(75)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・小(62)中(76)「児童生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除きます。）について、評価・指導を行う」

【英語】

- ・中(77)「家庭学習の課題(宿題)を与える」
- ・中(78)「生徒に与えた家庭学習の課題（長期休業期間中の課題を除きます。）についての評価・指導を行う」

_____は小学校質問紙の表記、〔 _____ 〕は中学校質問紙の表記